

2019 年度国連ユニタール広島

青少年大使プログラム

2019年7月30日~9月23日

事業報告書



2019年度国連ユニタール広島青少年大使プログラム 事業報告書

国連ユニタール広島青少年大使プログラムは2010年に開始され、現在の国際社会における課題や課題に対する国連の取り組みなどに対する高校生たちの理解を深めるだけではなく、彼らが将来国際舞台において活躍するために必要とされるスキルを身に付けることを目的としています。中四国地方唯一の国連機関であるユニタール広島事務所は、この青少年大使プログラムを地域密着型の取り組みの中でも中心的な事業の一つとして位置付けています。

2019年度のプログラムは、青少年大使としての活動を通じて2015年9月の国連サミットで採択された世界共通の開発目標「持続可能な開発目標（SDGs）」への理解を深めるとともに、様々な分野で活躍している各国の専門家との国際的なネットワークを形成することをターゲットに定め、実施されました。例年より多い46名の応募があり、志望動機及び小論文を基に選考を行い県内の16の高校より20名の青少年大使を選出いたしました。

2019年度のプログラムは計4回のワークショップと最終報告会によって構成されました。ユニタールが成人向け研修事業において行っているトレーニングを通じて、青少年大使たちはコミュニケーション、プレゼンテーション、チーム・ビルディングなどのスキルを向上させました。また、ワークショップ内では核軍縮やSDGsなどの様々なトピックに焦点を当てた講義が元国連職員や草の根で活動する若手活動家の方によって行われました。青少年大使たちにとって、これらのトレーニング及び講義は核なき世界の実現と2030年までのSDGsの達成のために、広島の高中生として自分たちに何ができるのか、そして何をすべきなのかを考える機会となりました。

ユニタール広島事務所は、本プログラムへの参加が青少年大使たちにとって、誰一人取り残されることのない平和な世界の達成に取り組むグローバル・リーダーになるための第一歩となることを願います。

ユニタールはこの場を借りて、今年度の青少年大使プログラムの開催及び実施をご支援くださった国際ソロプチミスト平和広島様、国際ソロプチミスト広島—中央様に心よりお礼申し上げます。

次頁より、各回のワークショップと最終報告会の様子について報告させていただきます。

第1回ワークショップ（2019年7月30日）

2019年度国連ユニタール広島青少年大使プログラムは、7月30日（火）に開始いたしました。第1回目のワークショップ本年度は7月30日に行われた第1回ワークショップでは、国連が掲げる「持続可能な開発目標：SDGs」の理解を深めました。「先進国」と呼ばれる日本においても、SDGsのほとんどが達成されておらず、日本にも貧困、ジェンダー不平等、労働環境などの課題が多くあることを学ぶことで、SDGsが決して途上国の課題なのではなく、世界全体の共通の課題であり取り組むべき問題出るということを学びました。

また、広島出身の元国連軍縮部職員の方や広島で核兵器廃絶に向けた取り組みを行う活動家の方に講義を行っていただきました。広島や長崎の被爆のについては学校の平和教育を通じて学んだことのある高校生たちでしたが、世界各地での核実験による被爆の実態、他国での非核に向けた取り組みについて学ぶ貴重な機会となりました。講義後は自分たちの持つ核に関わる疑問や考えを実際に書き出し、グループごとに議論を行いました。



2019年度の青少年大使たち。



広島出身で、被爆建物の保存や広島の被爆の経験を次世代に伝え次ぐ活動をしている福岡奈織さんから講義を受ける様子。



SDGsについてディスカッションを行う青少年大使たち。



核兵器の問題について、思い浮かぶ課題や疑問を書き出し、分類作業を行う様子。

第2回ワークショップ（2019年8月6日）

第2回ワークショップは、74回目となる広島原爆の日である8月6日（火）に開催されました。午前中のセッションでは、弊所が「人類を守るための軍縮」と題し、中満泉氏（国連事務次長・軍縮担当上級代表）をはじめとする核兵器廃絶・軍縮をめぐる国際社会の最前線で活躍される専門家の方たちを招いて開催した公開討論会に出席してもらいました。様々な専門用語使った政治・外交の難しい議論が繰り広げられる中、青少年大使の皆さんは真剣な眼差しでたくさんのメモを取りながら聴いていました。午後のセッションでは、「平和」とは何かということについて、平和学の視点から考えました。青少年大使たちは「平和」を、「単に戦争や紛争などが起こっていない状態ではなく、貧困や不平等がなく、すべての人々が安心して日常生活を送れる状態」と定義しました。

また、当日は世界的に有名な雑誌「ナショナル・ジオグラフィック」の取材を受け、青少年大使の皆さんは、広島の高校生として「平和」について考えることをそれぞれの言葉で話してくれました。



公開討論会を聴講する青少年大使たち。



公開討論会で質問をする青少年大使。



公開討論会のパネリストたちとの記念写真。

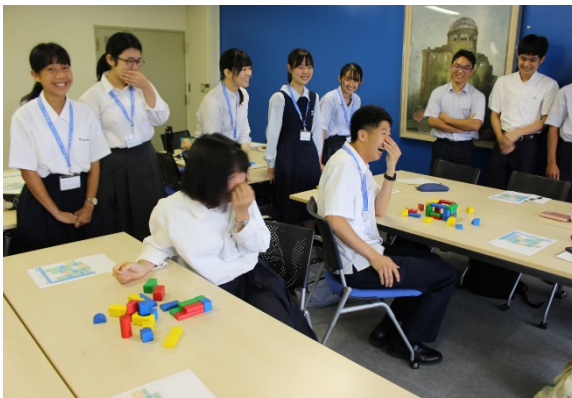


ナショナル・ジオグラフィック誌による取材を受ける青少年大使たち。

第3回ワークショップ（2019年8月22日）

第3回ワークショップでは、青少年大使たちはユニタールが海外からの研修生に対して行っているコミュニケーション研修を体験しました。様々な色や形をしたブロックを使ったトレーニングでは、2人1組で背中合わせに座り、情報の送信者と受信者の役に分かれ、送信者が一方的に色や形を伝えながら自分が組み立てているものを説明し、受信者は質問をせず送信者からの情報のみを基にブロックを組み立てました。実際に完成したものを見比べてみると全く異なるものが完成しており、相手に自分の「意思」や「考え」を伝えることの難しさを学びました。言語や文化、育ってきた環境が異なる人とのコミュニケーションが求められる国際社会において、相手に正確に自分の思いに伝えるためには何に気を付ける必要があるのかについて考える機会になりました。

また、第3回ワークショップでは、2019年度のプログラムの目玉でもある広島県主催「ひろしまラウンドテーブル2019」における国際シンポジウム「ひろしまレクチャー」に、広島県の若者を代表して登壇し、元オーストラリア外相のギャレス・エヴァンス氏と核軍縮についての深い議論を行いました。生き生きとした議論の中で、青少年大使たちは熱心に質問や意見を投げかけ、核軍縮の現在とこれからについて、重要な点を挙げてくれました。



完成したブロックを見比べてその結果に驚く様子。



エヴァンス氏とともに登壇する青少年大使たち。



積極的に自分の考えを英語で述べる青少年大使。



湯崎広島県知事との記念写真。

第4回ワークショップ (2019年9月1日)

第4回ワークショップでは、青少年大使たちはユニタール広島事務所が実施する研修事業「南スーダンにおける起業と事業設計」に参加する南スーダンからの研修生との交流の機会を持ちました。南スーダン人研修生と合同で行われたチーム・ディベロップメントを目的とした「エッグ・ドロップ」のトレーニングでは、生卵を子どもの頭に見立て、子どもの頭を守るためのヘルメットを作りました。与えられた資材にはすべて単価が定められ、決められた時間内で完成させなければならないというプレッシャーの中、青少年大使たちのグループでは、全体を統括するリーダー、計算担当、資材の切り分け及び組み立ての担当、プレゼンテーションの準備の担当とうまく役割分担を行うことで、1つのチームとしてうまく機能しながらプロジェクト制作に取り組むことができました。本合同セッションを通じて、青少年大使たちは南スーダンの研修生たちと様々な意見交換を行い、新たな視点を得るとともに、文化的視野を広げ、研修生たちと友好を深めることができました。

また第4回ワークショップでは、最終報告会に向けたプレゼンテーションの準備及び練習を行い、本番当日までに行う準備次項や役割分担について確認を行いました。



限られた時間、予算、資材を使ってヘルメットとプレゼンテーションを完成させた青少年大使たち。



作成したヘルメットについてプレゼンテーションを行い、実際に落下実験を行う様子。



英語で南スーダン人研修生と交流する青少年大使。



南スーダン人研修生たちとの記念写真。

最終報告会（2019年9月23日）

最終報告会は、9月23日にサテライトキャンパスひろしまにおいて、ご来賓として本事業のご支援者である国際ソロプチミスト平和広島様、国際ソロプチミスト広島—中央様、福山暁の星中学・高等学校長の小野田様をお迎えし開催されました。保護者及び学校関係者の方にも多くご来場いただきました。

青少年大使たちは「貧困」、「環境」、「核軍縮」、「信頼」の4つのテーマに基づいてグループごとにプレゼンテーションを行いました。「核軍縮」のテーマに取り組んだグループでは、「広島が人々に訴えかけるインパクトはとても大きいです。広島を平和都市として世界の人々に知ってもらう努力はこれからの核兵器廃絶に求められるアプローチだと思います。」「実現が難しい答えのない核兵器廃絶に向けて何が重要かは私たちが考えることができます。ここにいる一人一人が学び、考え、そして行動することが核兵器廃絶に繋がっていくと思います。」と、高校生として自分たちにできること、そしてしなければならないことについて、自分たちの言葉でしっかりと発表してくれました。



当日はご支援者、保護者、学校関係者、地元報道機関など、約80名の方にお越しいただきました。



堂々と自信をもって発表を行う青少年大使たち。



青少年大使プログラムを通じてたくさんの友情も芽生えました。



修了証を手に記念写真。

青少年大使たちの声

「国連ユニタール広島青少年大使プログラムに参加して、自分が世界の問題について考えたり、話あったりするのが好きなんだということに気づくことができた。将来の夢の実現に向けて、国際舞台で活躍し、様々な問題に取り組んでいる方たちからもっとたくさんのお話を聞きたいと思うようになった。」

「青少年大使プログラムを通じて、SDGsや核廃絶について同じ広島の高中生や専門家方々とのディスカッションを通じて学びを深め、意見交換をし、南スーダンの方たちと異文化交流をするなど、とても貴重な経験ができた。より広い視野で物事を考えられるようになり、将来やりたいことも決まった。これからもこのプログラムを通じてできた仲間と一緒に、環境保全の大切さ、平和の大切さについて発信していきたいです。」

「最初はユニタールって何だろう…というところから始まったが、気づけばみんなが国際社会の問題について話し合ったり考えたりすることが楽しくなっていて、もっともっとみんなと話し合いたいと思うようになった。会うたびに皆との距離も縮まり、毎回ワクワクして取り組むことができた。終わってしまうのが残念だけど、これからもこのネットワークを大切にしていきたい。」





United Nations Institute for Training and Research (UNITAR) Hiroshima Office
5F, 5-44 Motomachi, Naka-ku, Hiroshima, JAPAN

T: +81-82-511-2424
E: hiroshima@unitar.org
FB: UNITAR.Hiroshima